



弥生NEWS [VOL. 5]

前期から後期へ ～行事の秋にベストを尽くす～

本校の中庭の端に百日紅（さるすべり）の木があります。この鮮やかな花が初夏から3か月間咲き続けましたが、長い夏の終わりとともに散り始めると、秋が猛スピードで過ぎ去り、いつの間にか厳しい寒さの冬を迎えています。前期・後期の終始業式では、校長先生から「自己ベストの更新を！」とのお話がありました。弥生生がそれぞれのマイベストを尽くした出来事をまとめて紹介します。



4年ぶりに開催された「音楽会」(伊那文化会館)

誰も経験したことがない行事を学芸委員会が円滑に運営するなか、クラスごと積み重ねた練習の成果を発表しました。



松本大学長
「菅谷 昭 先生」
人権平和講演会

熱戦「秋季クラスマッチ」



高大連携事業の一環として、前松本市長の菅谷先生から、チェルノブイリ原子力発電所の事故後、現地で医療支援活動に従事された経験をもとに、「戦争の悲惨さや愚かさ」、「命の大切さ」、「核兵器の非人道性」を広く伝え続けることが不可欠であるというお話をいただきました。

「強歩大会」で18kmに挑戦しました

